

日蓮門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成14年11月28日
第26号

立教開宗七五〇年記念 「大日蓮展」開催 於東京国立博物館

平成十五年一月十五日、二月二十三日

既報の通り明年一月十五日から二月二十三日まで、東京国立博物館において立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開催されるが、今般十月十八日午後三時三十分より東京日比谷の日本プレスセンターにおいて新聞・TV等約六十社を集めて記者発表が行われた。

当日、日蓮聖人門下連合会からは渡邊清明理事長、東京国立博物館からは宮島新一企画部長、産経新聞社からは齋藤繁取締役事業局長がそれぞれ主催者を代表して挨拶、その後、展覧会の概要説明及び質疑応答が行われ、午後五時閉会した。

その中でとくに注目を集めたのは、今回の事前調査で新たに発見された長谷川等伯作品「鬼子母神十羅刹女像」である。その説明は後述す。

この作品を始めとして四部門構成で行われる本展覧会のそれぞれを代表する作品についても説明がなされた。

本展覧会の出品宝物・美術品については現在最終確定を急いでいるが、国宝・重文約五十件を含む百七十件程度になる見込みである。

現在門連加盟各派にポスター・チラシが配布され前売券の販売が行われているが、今後の団体の積極的な動員が期待される。

以下報道資料に基づき本展覧会の概要と、その主要作品を示す。

（以下報道資料）

展覧会概要

鎌倉時代には、禅宗、浄土真宗、時宗など多くの宗派が興りました。日蓮聖人もまた、鎌倉時代に教えを興されました。

日蓮聖人の布教スタイルが、他宗派を激しく批判するものであったため、一門は鎌倉幕府などからの激しい弾圧にさらされますが、ついに屈することはありませんでした。弘安五年（一二八二）、聖人は六十一歳の波乱に満ちた生涯を終えますが、その信仰は高弟たちによって広められ、今日の隆盛をみるにいたります。

今回の展覧会は、その日蓮門下のお寺に伝わる聖人ゆかりの品々、法華信仰にまつわる美術品、さらには、宗門に帰依した多くの芸術家たちの作品を取り上げ、一堂に展示しようとするものです。

教科書でおなじみの「立正安国論」（法華経寺 国宝）や、聖人の姿を忠実に写したとされる妙本寺の「日蓮聖人坐像」、今回新たに発見された長谷川等伯筆の仏画（鬼子母神十羅刹女像）などこれまで門外不出とされた品々が数多く陳列されます。日蓮聖人が法華経信仰の弘通（布教）を始めてから七五〇年を経た今、その歴史と文化をたどるこの展覧会を、ぜひ多くの方々に鑑賞していただきたいと思えます。

開催要項

名称 立教開宗七五〇年記念 大日蓮展

会期 二〇〇三年一月十五日（水）二月二十三日（日）

会場 東京国立博物館 平成館（上野公園）

開館時間 午前九時三十分～午後五時（入館は閉館の三十分前まで）



日蓮聖人坐像

（で）

休館日 毎週月曜日

主催 東京国立博物館、日蓮聖人門下連合会、産経新聞社

後援 文化庁、フジテレビジョン、ニッポン放送、サンケイリビング新聞社

観覧料 一般二〇〇〇円（一〇〇〇円／九五〇円） 高校・大学生九〇〇円（八〇〇円／五〇〇円） 小・中学生四〇〇円（三〇〇円／二〇〇円）

*（一）内は前売り／二〇名以上の団体料金。

* 障害者とその介助者一名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

* 前売り券は加盟各団体の事務局、各宗務所より十一月上旬取扱開始。

交通 JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩十分、営団地下鉄日比谷線・銀座線・上野駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩十五分

お問い合わせ

【会場案内】ハローダイヤル 〇三（五七七七）八六〇〇 ホームページ <http://www.sankei.co.jp/event/index.html>

【広報案内】「大日蓮展」広報事務局 〇三（三五七八）三七九〇

記念講演会

■一月二十五日（土）午後一時三十分～三時「日蓮その人へ」講師・立松和平氏（作家）

■二月十一日（火・祝）午後一時三十分～三時「法華経のたび」日蓮講師・中尾堯氏（立正大学名誉教授）

*いずれも平成館大講堂にて。定員三八〇名（当日先着順）

関連イベント

■二月十五日（土）午後二時～三時 雅楽公演 橘雅友会

■二月十六日（日）午後二時～三時 聲明公演「法華懺法」聲明研究会

*いずれも平成館大講堂にて。定員三八〇名（事前申込制・お申し込み多数の場合は抽選）

*お申し込み方法…往復ハガキにご希望の日にちと公演名（雅楽か聲明）

明）、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、〒一〇五〇〇〇一 東京都港区虎ノ門三丁目六十二 第2秋山ビル7F 大日蓮展広報事務局イベント係までご送付ください。一月三十一日（金）締切（当日消印有効）

展覧会四部門の構成と主な展示宝物解説

一 日蓮聖人とその門弟

日蓮聖人は立教開宗以後、鎌倉幕府に「立正安国論」を上呈し、純粋な法華経信仰への回帰を求めたが受け入れられず、かえって弾圧や妨害にあつた。しかしそれに屈することなく、着実に弟子や信者を増やしていった。日蓮聖人の肖像はいずれも骨太で、よくその人柄を伝えている。日蓮聖人の高弟である日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持の六人は、現在の山梨、静岡、鎌倉、千葉、東京を拠点に布教し、それぞれ教団を築いた。その後、日朗の門下である日像は京都に進出し、足利将軍家の後ろ盾を得て西国に勢力を拡大した。

ここでは、日蓮聖人と弟子たちの像や著者などをご覧いただく。

主な展示作品

日蓮聖人坐像（左上に奉掲）
鎌倉時代・十三・十四世紀、像高七六・八cm、神奈川・妙本寺蔵

不屈の精神力を備えた日蓮聖人の面影を髣髴とさせる、等身大の堂々たる肖像彫刻。強装束のように角張った衣の表現は、鎌倉時代の武将像に通じる。没年の弘安五年（一二八二）をあまり隔たらない頃の作だろう。日蓮聖人像の代表作。

立正安国論（一部）

国宝 立正安国論（左に奉掲）
日蓮筆、鎌倉時代・十三世紀、二九・四×一五九八・五cm、千葉・法華経寺蔵

日蓮聖人の遺した多数の著作のうち最も有名なもので、その信仰と思想をよく表している。文応元年（一二二〇）七月十六日に当時の幕府の権力者北条時頼に上呈した。その後、本書は日蓮聖人自身により何度も書き写されたことが知られるが、本巻は、奥書によって、文永六年（一二二九）十二月八日の書写本であることがわかる。

曼荼羅本尊 神奈川・妙本寺蔵

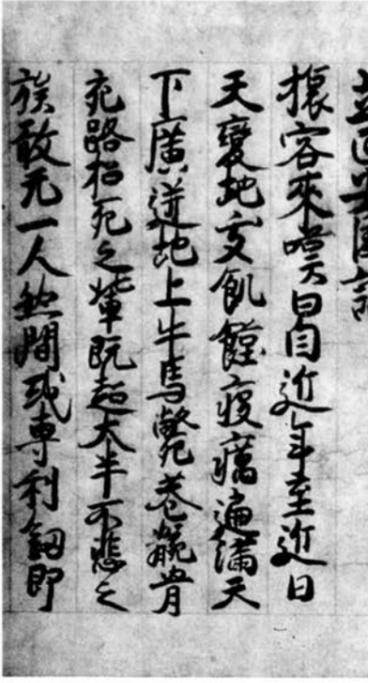
曼荼羅本尊は、日蓮聖人の信仰体験に基づく法華経の救済の世界を表したものである。この幅は、日蓮聖人が最晩年の弘安三年（一二八二）三月に身延山で書き、同五年に武蔵国池上で入滅した時に、その枕頭にかけられていたものと伝えられる。臨滅時の本尊として広く知られている。

二 法華経の美術

法華経では、造仏・造塔・写経などの功德が説かれ、また経の内容自体も豊かな芸術的イメージに富んでいる。このため、鎌倉時代に法華信

（小林正雄）

「文永十一年十月に蒙古より筑紫に於て、対馬の者……百姓等は男をば或は殺し、或は生取りにし、女をば或は取集めて手をとをして船に結付、或は生取にす。一人も助かる者なし」（二谷入道御書）。戦争とは、いつの世でも、女性や子供を供してお年寄りが一番被害を受ける。悲しいことには、宗祖の鎌倉時代と現代とは、時代は離れていても同じ末法であり、その様相において異なるところはない。◆平成十三年度の漢字コンテストで、一年を象徴する字として一番になったのは「戦」。平成十三年九月十一日のニューヨークの同時多発テロは世界を驚愕させた。三千人近い尊い人命を奪った犯人はウサマ・ビンラディンとして、米政府は報復のため、これをかくまうタリバンが支配するアフガニスタンを爆撃し、政権を崩壊させた。しかし、未だ犯人の生死も確認できず、爆撃は逆に一般市民数千人の死傷者をもたらした。◆このテロの背景には、イスラム教の過激派が存在する。イスラム教は六世紀にマホメットが教えを説いたことに始まり、彼は戦いをしながら布教したことが特色であり、スペインからインドまで支配した時代もある。アラブを唯一の神と崇め、偶像崇拝を禁止しているため、タリバンはパーミヤンの大仏を破壊する暴挙を行った。イスラム教徒は、一日五回の礼拝、喜捨、巡礼を行い、日常的にも禁酒、豚肉を食べず、女性のベールや一夫多妻などの習慣があり、斬首、手足切断などの刑罰を行うことも認められている。これを過激に実行したのがタリバンである。◆しかし、世界の平和は報復では決して訪れない。「恨みは恨みによって止まず、恨みは恨みに止まることを得ず」という釈尊のお言葉が示している。「命と申すは一切の財の中の第一の財なり」仏教の慈悲の教えにより、世界の一人ひとりの生命を大切に、真の平和・立正安国が訪れることを念願する。



立正安国論

從地涌出

古国より筑紫に於て、対馬の者……百姓等は男をば或は殺し、或は生取りにし、女をば或は取集めて手をとをして船に結付、或は生取にす。一人も助かる者なし」（二谷入道御書）。戦争とは、いつの世でも、女性や子供を供してお年寄りが一番被害を受ける。悲しいことには、宗祖の鎌倉時代と現代とは、時代は離れていても同じ末法であり、その様相において異なるところはない。◆平成十三年度の漢字コンテストで、一年を象徴する字として一番になったのは「戦」。平成十三年九月十一日のニューヨークの同時多発テロは世界を驚愕させた。三千人近い尊い人命を奪った犯人はウサマ・ビンラディンとして、米政府は報復のため、これをかくまうタリバンが支配するアフガニスタンを爆撃し、政権を崩壊させた。しかし、未だ犯人の生死も確認できず、爆撃は逆に一般市民数千人の死傷者をもたらした。◆このテロの背景には、イスラム教の過激派が存在する。イスラム教は六世紀にマホメットが教えを説いたことに始まり、彼は戦いをしながら布教したことが特色であり、スペインからインドまで支配した時代もある。アラブを唯一の神と崇め、偶像崇拝を禁止しているため、タリバンはパーミヤンの大仏を破壊する暴挙を行った。イスラム教徒は、一日五回の礼拝、喜捨、巡礼を行い、日常的にも禁酒、豚肉を食べず、女性のベールや一夫多妻などの習慣があり、斬首、手足切断などの刑罰を行うことも認められている。これを過激に実行したのがタリバンである。◆しかし、世界の平和は報復では決して訪れない。「恨みは恨みによって止まず、恨みは恨みに止まることを得ず」という釈尊のお言葉が示している。「命と申すは一切の財の中の第一の財なり」仏教の慈悲の教えにより、世界の一人ひとりの生命を大切に、真の平和・立正安国が訪れることを念願する。

仰を鼓吹した日蓮聖人の門流では、さまざまな美術工芸品が制作された。その本尊を絵画にした絵巻茶室をはじめとして、霊鷲山で説法する釈迦如来像の彫刻、法華経守護神像の絵画、さらに経の内容を描く法華経絵や、さらびやかな装飾経・経箱など、多彩な法華経美術を概観する。

主な展示作品

重要文化財 金銅宝塔
 覚性作、南北朝時代・応安三年（一三七〇）、高九八・一cm、京都・本法寺蔵



木製黒漆塗基壇の上に、金銅製の宝塔を据えた大形で精巧な舍利塔。応安三年（一三七〇）、近江の守護六角氏頼が造営して、同国の慈恩寺に施入したことが銘文に記される。その後、文禄四年（一五九五）に本法寺の衆檀が買い求めた。現在は塔内に法華経一巻が納められている。

重要文化財 釈迦如来坐像

岡山・妙因寺蔵
 像底に記された銘文により、延文三年（一三五八）に運慶六代の孫を名乗る慶派仏師、康俊により造られたことがわかる。妙因寺はこの時天台宗に属していたが、貞治五年（一三六六）本因寺日伝との法論を経て改宗した。

三 外護者と信者

日蓮聖人の弟子とその門流によって広まっていた教えは、加藤清正や徳川家康の側室お万の方、そして水戸光圀といった熱心な信者の外護を受けて発展していった。ここでは日蓮聖人の教えを厚く信奉した人々の画像や、手紙、奉納品などゆかりの品々を展示する。「南無妙法蓮華経」の題目が記された肖像画などに、法華経信仰を軸とした生活がうかがえる。

また、長谷川等伯などの信仰と結びついて制作された作品を展示する。

主な展示作品
重要文化財 仏涅槃図
 長谷川等伯筆、桃山時代・慶長四年（一五九九）、七九二・八×五二二・七cm、京都・本法寺蔵



本法寺の「大涅槃図」と称される巨幅で、描表装を加えた総寸は縦一〇メートル近い。長谷川等伯が六十一歳の時、一族の供養のために自身で描き本法寺に寄進したもの。等伯晩年の代表作で、開眼供養前に宮中で上覧された。

蓮池時絵舍利厨子 個人蔵

金粉を密に蒔き付けた金地に仕立て、金銀の高時絵で蓮池文様を描く。金色燦然たる豪華な厨子である。銘文によれば、時絵は五十嵐道甫、金工は後藤程乗が担当しており、熱烈な法華信者の合作であることがわかる。

四 法華文化の精神

日蓮門下の信者に、幕府お抱えの狩野家や、長谷川等伯、英一蝶などのすぐれた絵師がいたことはよく知られている。また、他の分野をみても、稀世のアーティストレクター本阿弥光悦をはじめ、やきもの尾形乾山、時絵の五十嵐家、金工の後藤家など、その顔ぶれはまさに多士済々の感がある。このコーナーでは、彼らの代表的な作品を集め、日蓮門下の寺院に伝わるさまざまな文化財とあわせて展観する。

主な展示作品

色絵紅葉透彫反鉢

尾形乾山作、江戸時代・十八世紀、高一・〇cm、口径二・〇cm個人蔵
 端を外に大きく反らせ、葉のあわいを透かした愛らしい形の鉢。白化

粧をした地に、赤、黄、緑の色を用いて流水に楓の文様を描く。鮮やかな彩りが見るものに目に焼き付く、ま



ことに印象深い作品である。

七面大明神応現図

茨城・妙光寺蔵

葛飾北斎は日蓮聖人への崇拜厚く日蓮聖人像を安置していた。日蓮聖人説法の場にいた妖艶な美女が七つの顔を持つ龍の姿に変わり、身延山の守護を誓ったという所伝にまつわる絵画で、動揺する人々とは対照的に日蓮聖人が泰然とした姿で描かれている。北斎八十八歳の作。

新発見

長谷川等伯の「鬼子母神」

―大日蓮展の調査で明らかに―

鬼子母神十羅刹女像
 長谷川等伯筆、室町時代・元龜二年（一五七二）、絹本着色、掛幅
 総寸法 縦一八五・〇cm 横五九・〇cm、画面寸法 縦一〇三・五cm 横三八・〇cm、富山・妙伝寺蔵

作品について

桃山時代の代表的画家・長谷川等伯（一五三九―一六一〇）の作品を新たに発見した。等伯が信春と称した時代に描いたものであることが本展覧会の調査で判明した。
 中央に鬼子母神が描かれ、そのまわりには十羅刹女が立ちならんでいる。鬼子母神は下の方をみつめている。その視線の先には、女性信者が、わが子が無事に生まれ育つようにと祈願している姿が想像できる。精妙で美麗な衣装の描写は、等伯がこの時期に制作した仏画に共通してみられる表現である。鬼子母神の顔の部分が特に磨耗しているが、これは御利益に与ろうとして信者が手で触れたためであろう。



うる最も遅い時期が示されることになり、等伯の年譜に新たな一行が記されることになった。

作者について

長谷川等伯は能登（石川県）七尾の生まれ。能登在任時には仏画や肖像画を描き、その後上洛。四十歳代に等伯と改号するまで信春と称した。等伯が興した長谷川派は狩野永徳が率いる狩野派と拮抗するまでとなり、作品に「雪舟五代」と記して雪舟正系を標榜した。また千利休、本法寺日通上人との交わりも深く、彼らの肖像画も描いている。代表作品は、国宝の松林図屏風（東京国立博物館蔵）、知積院障壁画など。

発見の経緯

本作は、制作当初から妙伝寺で寺宝として保管されていたが、近代以降長らく、掛けられる事もなく、また筆者など広く知られることはなかった。
 「大日蓮展」開催にあたり、展覧会出品候補の調査のため、東京国立博物館の列品課・松嶋雅人研究員が平成十四年六月二十日に妙伝寺を訪問した。当日は、別の宝物を調査する予定だったが、同行の日蓮聖人門下連合会の関戸堯海師がたまたま本図を拝見したところ、「長谷川信春」の署名を確認することができた。
 これまで寺外で公開されたことは一切なく、本展覧会が一般にお披露目される初の機会となる。

祝 慶讃七五〇

平成十四年壬午



日蓮聖人門下連合会

(平成十四年十一月現在)

日蓮宗宗務院

管 長	藤井 日光	財務部長	中條 令紹
宗務総長	渡邊 清明	総長室長	篠原 智高
伝道局長	市川 智康	立教開宗七百五十年 慶讃会事務局長	田澤 元泰
総務局長	小松 淨愼	現代宗務研究所長	石川 浩徳
伝道部長	田端 義宏	参 与	堀江 宏正
教務部長	及川 周介	参 与	浅井 玄裕
総務部長	曲山 海弘	日蓮宗新聞社社長	西嶋 宏明

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
電話 〇三(三七五)七一一一
FAX 〇三(三七五)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	有原 日龍
宗務総長	渡辺 俊岳
教学部長	佐々木 明乗
財務部長	佐藤 義賢
教化部長	高村 法顕
庶務部長	有田 秀達

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-十九-一
電話 〇三(五六一四)三〇五五
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長	中山 日暁	教務部長	大森 俊栄
宗務総長	中村 通義	布教部長	早川 義正
宗務次長	渡辺 昭夫	主 事	津村 乗信
社会部長	大塚 正純	主 事	多門 顕正
庶務部長	島田 幸晴	主 事	飯沢 道安
財務部長	藤崎 行学	主 事	小松 正学
		主 事	前田 成明

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉榎枝町九一
電話 〇七五(七九二)七一一一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	鈴木 日艸
宗務総長	土屋 善敬
総務部長	佐古 弘文
教学部長	門谷 東生
財務部長	八木 恵岳
教化部長	佐古 大弦

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三三-一六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三三五六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

講 有	野崎 日丞
講 員	梶本 日裔
宗務総長	高尾 日音
宗務副総長	佐藤 日凰
宗務副総長	藤本 博造
宗務本庁役員一同	

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東堅町二-〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀 日有
宗務総長	野間 正明
総務部長	長崎 秀要
教学部長	岩崎 広義
財務部長	原 光明
庶務部長	
法務部長	

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上七法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務院

管 長	上川 日乾
宗務総長	斎藤 隆彦
総務部長	上田 浩岳
教学部長	辻本 寛孝
財務部長	堀 智泰
社会部長	木村 完祥
主 事	本多 信正
主 事	足立 真正

〒602-8447 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	杉本 日慈
宗務総長	高邊 信幸
宗務部長	信 隆日
財務部長	増田 隆雄
総務部長	藤井 宏長
庶務部長	土畑 信教
教務部長	音羽 隆全
門連常任理事	山下 通雄

〒602-8418 京都市上京区寺之内大通大宮東大妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三三二七
FAX 〇七五(四五二)三三九七

宗教法人 国柱会

賽 主	田中 暉丘
理事長	古知 毅彦
門連常任理事	大橋 邦正
門連理事	石見 良教

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-一九-一八
電話 〇三(三六五六)七一一一
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	岡本 日亘
副会長	山田 一光
理事長	桃井 晋城
副理事長	杉若 恵隆

京門連事務局
〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下る
本能寺内
電話 〇七五(二二二)五三三五
FAX 〇七五(二二二)二八三八

日本山妙法寺大僧伽

主 座	塙 行幸
長 老	石山 定光
長 老	吉田 行典
長 老	酒井 天信
長 老	今井 行康
長 老	西堀 行施
長 老	二宮 和嘉
事務局長	森岡 秀雄

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七-一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

門連時報

身延理事会開催さる

平成十四年六月二十四日(月)日蓮宗本山身延山久遠寺(藤井日光法主)で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会代表・北海道門下連合会代表など、計二十五名が参加した。

午前十一時半、常唱殿より行列にて御草庵へ。続いて、祖廟にて渡邊清明理事長御導師により立教開宗七



全門連身延理事会(平成14年6月24日)

百五十年事業円成を祈念し、法味言上。記念写真撮影後、久遠寺へ移動し法味言上。報恩閣にて昼食後、休憩中に宝物館を参観。

午後二時より、報恩閣にて理事会を開会。渡邊清明理事長議長となり議題に沿って議事を進行。事務局より「平成十三年度事業報告」がなされ、理事会・常任理事会の開催、門連だよりの発行、理事等人事の変更、祖廟輪番等について報告があり諒承された。

次に、「平成十三年度決算」について事務局より詳細について報告があり、本日監査欠席のため併せて本年五月三十日に監査を行い、承認されているとの報告も加えられ、諒承された。

続いて、「平成十四年度予算並びに事業計画」について、事務局より報告。特に本年は「大日蓮展」開催の準備費用が計上されており、調査に際する費用並びに開催中の門連役員者に関する費用との説明を受け、諒承された。

期満に伴い、新たに本門佛立宗・青木日新師の推薦を承認。

続いて、「地方門連活動報告」に入り、京都門下連合会杉若恵隆師より、本年立教開宗七百五十年事業を行うため企画委員会を作り検討中と報告がなされた。また、大阪門下懇話会藤村恵容師からは、京都十六本山バスツアー並びに研修会の開催。特に、立教開宗七百五十年記念の「清澄寺並びに「大日蓮展」(団参)を計画」との報告がなされた。最後に北海道門下連合会佐藤光春師より、地域的に活動が困難であるが努力していきたいとの報告があった。

続いて、「大日蓮展」について事務局より経過報告。その後、質問があり、特にチケット販売について各派での割り当て負担はないことが確認されたが、できるだけ協力をお願いすることとした。

午後四時閉会し、場所を「日本平ホテル」へ移し、懇親会を開催した。例年と会場が変わり和やかに懇親が深められた。

本紙初代編集長 富川孝恭上人遷化さる

平成十四年十月七日 本葬にて

弔詞

謹んで富川孝恭上人のご霊前に永訣の辞を捧げます。

富川さんとの邂逅は、日蓮聖人第七〇〇遠忌をめぐってのことでした。国柱会の今は亡き田中香浦先生の紹介をいただき、当時日蓮宗務院においてなられた富川さんをお尋ねし、遠忌の記念事業につきあれこれと企てをめぐらせました。そして、その中から生まれたのが、「日蓮聖人門下青年の船」でした。

この企画を実現させるべく、日蓮聖人門下連合会の場で師子奮迅の活躍をなさったお姿が今も私の脳裏に焼き付いて離れません。

昭和五十七年三月二十六日、いよいよ船出の時がきました。横浜港に横づけされたコーラルプリンセス号に乗り込んだ時、これまでの苦勞が胸をよぎり、よくぞここまでこぎつけたと手をとって喜び合ったことも、今は懐かしい思い出です。

富川さんは青年の船・本部長に就かれ、五百名の若者を取り仕切る中心として見事その大役を果たされました。清濁併せのむ包容力を発揮され、悠揚迫らず難事に対処し、青年の船をして立正安国の世界と化せし

められました。

ゲームでのこと。団員が砂浜でたわむれ、嬉嬉として泳ぎまわる中、本部長は一人端然と浜辺の小屋に腰掛け、全員の安全を見守らんとし、海辺をキッと睨んでおられました。

お側に近寄るのにはばかれるほど、全員の無事を見届けるのが、俺の役目だ、との厳しいお顔つき。この使命感こそ、富川本部長の真骨頂なのだとつくづく心に響いてきたことでした。

十一日間の航海を、一人の事故者を出すことなく果たし、横浜に帰港。その時は、あたかも戦いすんだもののふの如く、大戦果を上げ只今帰国いたしました、そんな思いでありました。

富川さん、もう今生ではともに大戦果をあげることはないかもしれません。永遠のお別れをいたさねばなりません。しかし、しかし富川さんが我々に遺された日蓮聖人への熱烈な、そして純粋な信仰心は未来永劫に不滅です。その不滅の信仰心に結ばれるひとりとして、いづれ又いつの世に富川本部長におつかえができるよう、信行に励むことをお誓いいたします。

富川さん、霊山会からおおきな目でキッと睨み付け、私をお守りください。

(編集委員 相澤宏明)

年月日	氏名	役職	就任	退任
平成一三・七・一	高見正弘師	日蓮本宗 常任理事	就任	退任
平成一三・七・一	野間正明師	日蓮本宗 常任理事	就任	退任
平成一三・七・一〇	吉田日義師	法華宗真門流管長	遷化	退任
平成一三・一一・一〇	原井慈鳳師	法華宗本門総長	就任	退任
平成一三・一一・一〇	渡辺俊岳師	法華宗本門流 常任理事	就任	退任
平成一三・一一・一〇	桃井晋城師	法華宗本門流 理事	就任	退任
平成一三・一一・一〇	佐藤義賢師	法華宗本門流 理事	就任	退任
平成一三・一一・一〇	矢吹慈英師	法華宗本門流 理事	就任	退任
平成一三・一一・一〇	有田秀達師	法華宗本門流 理事	就任	退任
平成一三・一一・二二	加藤淳真師	本門佛立宗 常任理事	就任	退任
平成一四・一・一	高野日龍師	京都門下連合会 会長	就任	退任
平成一四・一・一	金山日龍師	京都門下連合会 常任理事	就任	退任
平成一四・一・一	岡本日巨師	京都門下連合会 常任理事	就任	退任
平成一四・一・一	杉若恵遠師	京都門下連合会 常任理事	就任	退任
平成一四・一・一	桃井晋城師	京都門下連合会 理事	就任	退任
平成一四・一・一	野間正明師	京都門下連合会 理事	就任	退任
平成一四・一・一	杉若恵遠師	京都門下連合会 理事	就任	退任
平成一四・二・二六	秋場善弥師	国柱会 理事	就任	退任
平成一四・二・二六	石見良教師	国柱会 理事	就任	退任
平成一四・三・三	吉田日義師	法華宗真門流管長	就任	退任
平成一四・三・三	上川日乾師	法華宗真門流管長	就任	退任
平成一四・四・一	篠原智高師	日蓮宗 常任理事	就任	退任
平成一四・四・一	小松淨慎師	日蓮宗 常任理事	就任	退任
平成一四・四・二五	長瀬日還師	元日蓮宗宗務総長	遷化	退任
平成一四・五・三〇	金山日龍師	日蓮宗	就任	退任
平成一四・五・三〇	永田恵遠師	日蓮宗	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の日蓮宗新聞

伝道機関紙

毎月1日・10日・20日

年間購読料3,600円(送料込)

一冊350円(送料別)

年間購読料1,700円(送料込)

教誌 **正法**

○年4回発行

お正月(1月号)/春季彼岸(3月号)

お盆(7月号)/お彼岸・お会式(9月号)

詳しくは…

(株)日蓮宗新聞社

〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3

TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028

nichiren@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/

(業務時間 午前9時30分～午後5時)

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082 東京都大田区池上4-18-1

TEL&FAX.03-3755-6462

(業務時間 午前10時～午後4時)

※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

国柱会

◆全国各地方連合局において、研修会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。毎月17日、恩師田中智學先生報恩法要厳修。毎月1日、初歩より学ぶ教学研鑽会開催。

◆平成14年1月1日、送旧迎新法要。田中暉丘賽主以下、明治神宮参拝。新年拝賀式・元旦大國禱・神酒拝載式厳修。2月11日、紀元節慶讃法要厳修。15日、釈尊涅槃會報恩法要厳修。16日、聖祖降誕會慶讃法要厳修。国柱会本部において「立教開宗七五〇ネットワーク」結団の儀厳修。24日、スリランカ大使・カルナティラカ・アマヌガマ氏夫妻来園、田中賽主と懇談。3月8日、武蔵野御陵国柱会清掃奉仕奉行。10日、国柱会本部にて婦人部サークル「申孝園の集い」開催。21日、妙宗大靈廟春季彼岸大供養会厳修。宮澤賢治学会春季セミナー一行来園。

京都門連

◆平成13年7月10日、大本山本隆寺貫主・吉田日襄現下ご遷化。8月23日午後9時半より「第38回夏季大学」(於・本能寺文化会館)。講題と講師は、「日蓮聖人の修学について」日蓮宗本山妙覚寺貫主・頂岳日選現下、「日蓮聖人の誓いと願い」

日蓮宗現宗研前所長(当時)石川教張師、「人間成功のコツ」PHP研究所副所長江口克彦氏。参加者百五十名。同日午後5時、理事会(本能寺客殿、御会式)の件。

◆9月3日、京都門下青年会が身延御廟所で、結成三十年に向けての誓願法要厳修。10月5日、お会式奉行委員会。10月6日、本山本満寺で第七二〇回門連合同御会式。導師は伊丹日章現下。講師に岡本日巨現下。10月18日、本山立本寺貫首加藤貫雄日祥現下ご遷化。10月19日、門連理事會。平成14年度の活動計画を審議した結果、11月23日に立教開宗七五〇年慶讃の合同イベントを開催することに決定。そのため、来る春の開宗会・夏季大学・お会式を一年休止し、人員・予算の面でも全力を傾注することにした。

◆11月5日、門連理事會、全門連京都理事會・懇親會の件。11月27日、全門連京都理事會・懇親會(妙覚寺竹茂楼。12月7日、本山本満寺法灯継承式。金山寛成日龍現下ご退山、大塚泰詮日行現下ご晋山。12月17日、門青理事會・忘年会。新幹事長に藤井照源師を選出。来る結成三十周年に向けての事業総括を行った。12月14日、会計監査。12月18日、門連理事會。平成13年度会務行事報告案・決算案作成。12月22日、本山会主任會(菊水)。

◆平成14年1月22日、門連理事會・懇親會(本能寺客殿)平成13年度決算・監査報告。14年度新役員確認・行事予定・予算案。「日蓮展」について。新役員岡本日巨新會長(本能寺)、山田日永副會長(妙頭寺)、桃井晋城理事長(龍雲院)、杉若惠隆副理事長(本栖寺)。2月13日、七五〇企画委員会会場視察(本能寺春秋座)。

◆2月16日、11時から本能寺文化会館で総会。各種議案を審議・承認。12時から本能寺本堂で宗祖降誕會。本年は檀信徒に案内せず、岡本日巨貫首現下導師のもと、門連会員約三十余名のみで、宗祖の降誕會を奉祝した。

◆2月26日、門連企画委員会(本能寺)。3月3日、大本山本隆寺晋山式、上川日乾現下晋山式。4月11日、門連七五〇実行委員会(本能寺)。

◆5月9日、本山立本寺本葬・晋山式、加藤貫雄日祥現下ご本葬。上田尚正日瑞現下ご晋山。7月11日、門連七五〇全体委員会。8月23日、門連理事會。七五〇イベント中間報告。

◆10月23日、門連理事會。七五〇イベント最終報告。11月23日、七五〇

イベント・梵音聲(春秋座)。12月17日、門青三十周年記念式典、門下青年會發會記念の日(全日空ホテル)。(谷口真也)

◆7月23日、26日の四日間、京都総本山妙満寺において第39回頭本法華宗。全国より百九名の参加者が集まり、夏休みの小さな修行に励んだ。三日目には大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの見学もあり、参加者各々有意義な思い出を作り、来年の再会を誓い合っていた。

◆8月25日、9月8日の十五日間、総本山妙満寺において妙塔大学林を開設した。本年度は本科(二年生)七名、研修科(二年生)八名の計十五名の受講があり、酷暑の中早朝より深夜まで行学の二道に励んだ。

◆2月22日、教区所長會、布教師會開催。3月3日、総本山本隆寺百三三世貫主川上日乾現下晋山式執行。3月27日、29日、僧風林開講。4月2日、21日、春季学林開講。4月5日、7日、総本山本隆寺に於いて立教開宗七五〇年慶讃大法要厳修。6月18日、真門教学講習會開催。6月30日、第二教区檀信徒研修會。

◆8月1日、3日、暁天講座開催。8月23日、29日、第一・二・三種講習會を総本山本隆寺で開催。8月23日、29日、札幌日泰寺にて北海道学林開講。9月4日、宗会議員選挙投票日、即日開票。(堀内浩善)

◆2月3日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首鈴木日坤現下導師のもと厳修された。3月8・9日、東京東鴨・法華宗宗務院において、第百次定時宗務所長會が開催された。4月24日、東京東鴨・法華宗宗務院会議室において、宗務所長會が開催された。

◆5月12日、伊豆・靈蹟別院蓮着寺において、「祖岩法難會」が厳修された。今年には立教開宗七百五十年を記念して、新たに日蓮聖人の銅像が建立された。5月13日より6月21日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練經・浄行などに励み、行学二道に精進した。◇5月24日より28日までの五日間、総本山本成寺において、日坤現下導師のもと「立教開宗七百五十年慶讃千部大法要」が厳修され、

全国寺院よりの団で賑わった。初の24日には、記念事業としてなされた、大本堂屋根銅板葺替、欄間、渡り廊下、トイレ、冠木門等の大改修——「平成の大修理」の落慶式が併修された。参拝客は、改修のなった伽藍に口々に賛嘆と喜びの声をあげていた。

◆6月8・9日、三宗統合協議會統合学院学生講座が、本宗当番により、講師に元学林長・松吉範員師を迎えて、東京東鴨の法華宗宗務院会議室において開催された。6月18・19日、平成14年度三宗統合協議會が、本宗当番により、伊豆・靈蹟別院蓮着寺において開催された。(松吉慶憲)

◆本門法華宗では去る4月13・14両日に、立教開宗七五〇年慶讃大法要が京都大本山妙蓮寺(杉本日慈貫首)で厳修された。13日、第一座法蓮中興日忠聖人五百遠忌大法要が杉本日慈貫首として厳修。第二座松本日望閣導師により全国の檀信徒よりの写経の納経法要が厳修。14日第三座、本堂再建発願祈念法要、老朽化の進む本堂に対し、次世代の信仰の道場を築き上げる誓いを祈念。第四座、立教開宗七五〇年慶讃大法要、稚児行列を先頭に大導師杉本日慈貫首以下式衆が山門に到着、慶讃天童音楽大法要として厳修。法要後、全日空ホテルにおいて祝賀會が開催された。

◆日蓮聖人立教開宗七五〇年法要奉行會より、4月14日奉修の「日蓮大聖人立教開宗七百五十年慶讃大法要」の記念ビデオが、門末各寺院に記念品として送付された。6月中。

◆本門法華宗立教開宗七五〇年奉讃會では門末各寺院檀信徒向けに、「日蓮聖人の御生涯」画集でつづる歴史と伝説(杉本日慈貫首執筆)を発売刊。門末寺院を通じ配布。

◆本門法華宗学院では、第百二回教學講習會を6月24・25日に、第百三回教學講習會を9月10・11日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催。(木村光正)

◆宗祖日蓮大聖人開宗七五〇年慶讃大法要が、光長寺(4月5日・6日)、鷲山寺(4月6・7日)、本能寺(5月4・6日)、本興寺(5月6・7日)の四大本山において無事奉修された。5月13日、大本山本興寺貫首有原日龍現下が、第一二四代法華宗管長に就任され、同本山において推戴式を奉修。仍って同日、門下連合會顧問に就任。第五十五次定期宗會が5月20・22日に宗務院に

おいて開催。渡辺新総長の施政方針に続き、予決算の承認可決等十四議案を議定して閉會。全国宗務所長會が5月28・29日に宗務院において開催。本年度の宗務執行等十八議題を協議して閉會。

◆法華シリーズ第九巻として、興隆学林教授・大平宏龍先生執筆による「法華經の略要品」が発行された。購入申し込みは宗務院(電話03・5614・3055)まで。価格は八〇〇円。

◆本年度の教學講習會は、次の五会場。北海道—8月24・26日(旭川・白蓮寺)、東海—9月30日・10月2日(日沼津キヤッスル)、兵庫—10月16・18日(神戸メリケンパークオリエンタルホテル)、中国—10月22・24日(竹田・円福寺)。第16回法華宗教学研究発表大会が、11月6日京都・大本山本成寺を会場に開催される。

◆去る7月13・14日の両日にわたり、夏の本山開講會に併せて、立教開宗七五〇年修徳大法要が奉修された。全国から、参詣當番の団を含め、総計一万二二二名の参詣であった。

◆去る8月3・4日、高祖大士立教開宗七五〇年を記念して青少年大会が開催された。3日は、京都國際會館に、ヤング・フェスタ・イン京都として、佛立若人の祭典が催され、4日には本山有清寺で、青少年修徳大法要が奉修された。全国から一七〇〇名を超える若人が参集した。

◆本年度、定期叙任者が発表された。権大僧正に博多・光善寺小林日進師をはじめ、権僧正に十七師、上座講師に二十七師が、10月5日の午前10時より、本山において、叙任式が厳かに執り行われた。

◆去る10月12・13・14日の三日間に亘り、本山高祖會に併せて、最後の高祖立教開宗七五〇年修徳大法要が全十五座奉修。尚、報恩教化は8月6日現在、七八、八二二人成就。

◆(前島照力) 日蓮聖人流 誦の地・佐渡 が高き日本一の「日蓮聖人大銅像」(像高十三米)の建立が進められている。立教開宗七百五十年慶讃事業として、青年僧を中心に結成された佐渡銅像建立委員会(佐野前延本仏寺住職・代表)が取り組んでいる。きっかけは、平成10年10月、全国日蓮宗青年會が創価学会の佐渡進出を憂慮して「佐渡結集」にて唱題行脚を

展開、行脚を目の当たりにした土屋辰治氏(根本寺檀徒)が全日青に土地四二〇坪を寄進したため。

◆平成14年4月28日、日蓮聖人お題目始唱の聖地、千葉県清澄寺では前日の27日から28日の二日間、宗門法要が厳かに営まれ、全国七十四管区から僧侶檀信徒代表者約千人が結集した。とくに28日、午前八時から宗門法要に合わせ、全国各地の寺院・家庭で「誓願の灯」の赤いローソクを灯し、それぞれの「立教開宗七百五十年慶讃」法要が営まれた。(金子和正)

◆本山要法寺七五〇年記念事業のひとつに宝蔵再建を掲げ、文化庁と京都府文化財保護課の指導助成によって施工を進め、延べ床面積二、一五〇㎡、鉄筋コンクリート造り、二階建、本瓦葺きの本格的な宝蔵が平成14年3月下旬に竣工落成した。

◆平成14年4月28日、本山要法寺にて立教開宗七五〇年慶讃大法要を厳修した。大法要は午前十時の受付開始と共に、新装となった宝蔵内において本山重宝・国の重要文化財「鍔金蓮唐草透刻経筥」の展覧を行い、多くの見学者を魅了した。

◆正午、全国末寺寺院より募った五十名にもおよぶ若年檀信徒によって結成した「唱導隊」が、「立教の灯り」を奉持しながら都大路を本山まで唱題行を行い、このフレッシュな試みは多くの参詣者の目を見はらせた。

◆午後一時、嘉儀日有現下を大導師として青年僧による式楽、法中が堂内を巡り、檀徒の心を和ませ、音楽によるイメージ法要を奉修した。

◆音楽法要は、仏教音楽家の天上昇氏を招いてシンセイサイの演奏を奉納、読経や転法輪の問合いを荘重かつ幻想的な楽曲で彩り、とりわけ日蓮大聖人のご生涯をイメージして作られた新曲は圧巻であり、参詣者を心酔させた。

◆法要のクライマックスは「転法輪」、日有現下が高座より大音声で熱弁を發せられると、千人にもおよぶ多くの参詣者は目を輝かせて熱心に聞き入り、感銘を心に深く刻んだ。

◆本山要法寺七五〇年記念事業のひとつに宝蔵再建を掲げ、文化庁と京都府文化財保護課の指導助成によって施工を進め、延べ床面積二、一五〇㎡、鉄筋コンクリート造り、二階建、本瓦葺きの本格的な宝蔵が平成14年3月下旬に竣工落成した。

◆平成14年4月28日、本山要法寺にて立教開宗七五〇年慶讃大法要を厳修した。大法要は午前十時の受付開始と共に、新装となった宝蔵内において本山重宝・国の重要文化財「鍔金蓮唐草透刻経筥」の展覧を行い、多くの見学者を魅了した。

◆正午、全国末寺寺院より募った五十名にもおよぶ若年檀信徒によって結成した「唱導隊」が、「立教の灯り」を奉持しながら都大路を本山まで唱題行を行い、このフレッシュな試みは多くの参詣者の目を見はらせた。

◆午後一時、嘉儀日有現下を大導師として青年僧による式楽、法中が堂内を巡り、檀徒の心を和ませ、音楽によるイメージ法要を奉修した。

◆音楽法要は、仏教音楽家の天上昇氏を招いてシンセイサイの演奏を奉納、読経や転法輪の問合いを荘重かつ幻想的な楽曲で彩り、とりわけ日蓮大聖人のご生涯をイメージして作られた新曲は圧巻であり、参詣者を心酔させた。

◆法要のクライマックスは「転法輪」、日有現下が高座より大音声で熱弁を發せられると、千人にもおよぶ多くの参詣者は目を輝かせて熱心に聞き入り、感銘を心に深く刻んだ。

◆本山要法寺では、立教開宗七五〇年の大法要を「後世に語り継ぐ法要」として、新しい世紀の夜明けを、来る立教開宗八〇〇年につなぐ架け橋として歩みをおこした。

(柳下正則)

●日蓮聖人門下連合會 目的 本會は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合會の連絡、協力、團結を強化することを目的とする。

●事業 本會は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。 1、祖廟護持の組織強化 2、教育事業の提携 3、布教の連合強化 4、懇談會、研究会、講演會等の開催 5、各種出版物の刊行 6、海外布教の提携及び交流 7、対外的な各種の運動 8、その他

●加盟団体 日蓮宗 法華宗本門流 日蓮宗 法華宗本門流 本門佛立宗 日蓮宗 本門佛立宗 本門法華宗 本門法華宗 本門法華宗 日本山妙法寺 京都門下連合會

●加藤団體

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えに触れる機会が増えて触れることである。

(良)